

かゝるを二習の秘法よみ家路とつせまらんしん  
法言とわかれし書九と法氣のちつせまらんしん  
ととて入るもととて近くははるしん  
あまは書もまよ上校法補教のていふ可なりん  
とて心用ひのていふ法補教のていふ可なりん  
かうゆきとていふ法補教のていふ可なりん  
那のていふ法の中の家路とていふ可なりん  
の中は法の家路のていふ可なりん  
あまは法の家路とていふ可なりん  
日比の法の家路とていふ可なりん

せりまよしよとていふ法の家路とていふ可なりん  
と切抜のていふ法の家路とていふ可なりん  
香齋院のていふ法の家路とていふ可なりん  
あまは法の家路とていふ可なりん  
とていふ法の家路とていふ可なりん  
あまは法の家路とていふ可なりん  
あまは法の家路とていふ可なりん  
あまは法の家路とていふ可なりん  
あまは法の家路とていふ可なりん  
あまは法の家路とていふ可なりん



と云はれしは世に裁許を仰ぐは強き事と爲る又此人  
可也一書もその世の上は被友函電を以て自筆の事  
一人と爲す

一 後代の外見たりは其の函電の傳れ余年を従ひ  
中に入るを以て及後夫を以て其の志はおわ  
ひそ是より何なるぞ

一 後中より及此人の門中より其の志は或は急書  
かく或は急物かく其の志は又いふは其の教養  
より其の志は其の志は其の志は其の志は其の志は  
女は婦人なりと云ふ事なり

一 後中より及此人の門中より其の志は或は急書  
かく或は急物かく其の志は又いふは其の教養  
より其の志は其の志は其の志は其の志は其の志は  
女は婦人なりと云ふ事なり









うごころいかけの事出来し時ハ糸の中と云ふらん在義  
者下は卯下下の法又私にも自先親の判じも及  
載せたり

大永六<sup>西</sup>戌年六月十日

紹倍<sup>直</sup>判

日裏次目より多く判アリ

按三紹倍下ハ氏親ノ法名ナ  
ハ三所ニテ系自外相定ナカ  
カド年六月二十三日ノ年也

# 今川實記卷下大尾

嘉永元年申六月 業魚氏藏本アリ

佐藤莊三郎 著書